

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：地域高規格道路 阿南安芸自動車道 一般国道493号 北川奈半利道路	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：高知県 延長 ：5.0km
起終点 ：自：高知県安芸郡北川村崎山 至：高知県安芸郡奈半利町芝崎		
事業概要 ：一般国道493号は、高知県高知市から高知県安芸郡東洋町に至る延長約98kmの幹線道路である。北川奈半利道路は、地域高規格道路・阿南安芸自動車道の一環として広域的な交流及び日常的な交通障害の解消を目的とした延長5.0kmの自動車専用道路である。		
H8年度事業化	H9年度用地着手	H9年度工事着手
全体事業費 ：約198億円		事業進捗率 ：約99%
計画交通量 ：2,600台/日		供用済延長 ：3.1km
費用対効果分析結果	B/C ：(事業全体) 0.4 (残事業) 11.4	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 1.3 /246億円 (事業費)：0.91/245億円 (維持管理費)：0.40/1.2億円
		総便益 ：(残事業)/(事業全体) 15 /92億円 (走行時間短縮便益)：14 / 77億円 (走行経費減少便益)：1.4 / 13億円 (交通事故減少便益)：-0.16/1.9億円
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施		
交通量変動：B/C=12.2（交通量+10%） B/C=10.0（交通量-10%） 事業費変動：B/C=10.6（事業費+10%） B/C=12.1（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=11.2（事業期間+10%） B/C=11.4（事業期間-10%）		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【約173千人・時間/年(約7割)削減】 ②物流効率化の支援 ・北川村において農林水産品の流通の利便性が向上。【ゆず生産量県内7位 北川村3位】 ③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路の位置づけがなされている。(阿南安芸自動車道) ④災害への備え ・現国道493号は第2次緊急輸送道路に指定されている。 ・現道の防災点検要対策箇所が解消される。 ・現道の事前通行規制区間(L=2.0km)が解消される。 ⑤地球環境の保全 ・CO2排出量が約0.6千t/年(約4割)削減 ⑥生活環境の改善・保全 ・NOX排出量が約2.2t/年(約5割)削減 ・SPM排出量が約0.2t/年(約5割)削減		
関係する地方公共団体等の意見		
本事業の推進にあたっては、四国8の字ネットワーク整備推進四国東南部連盟（四国東南部の4期成同盟会）より積極的な整備促進要望を受けている。		
事業評価監視委員会等の意見		
定量的な効果である走行時間短縮便益等の他にも、異常気象時通行規制区間の解消や歩行者の安全確保など、地域住民の安全性の向上に寄与する効果も高く、残事業に対するB/Cも1.0以上となっていることから、事業を「継続」とする。		
知事の意見		
北川奈半利道路をはじめとする阿南安芸自動車道は、四国8の字ネットワークを形成し地域間連携・物流強化を図るうえで、重要な社会基盤であるとともに、災害時の交通遮断を回避するなど、緊急時の災害輸送等の役割を担う「命の道」となることから、引き続き事業を継続し、早期全線供用を目指したい。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		
近年の集中豪雨や台風等の異常気象により、唯一の幹線道路である国道55号の事前通行規制が頻発しており、災害に強い当該路線の必要性が高まっている。		

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに3.1kmを部分供用している。未供用区間の供用に向け、現在工事を推進している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成22年度に全線供用を予定している。

施設の構造や工法の変更等

トンネル照明や残土処理の計画見直し等によりコスト縮減を図った。

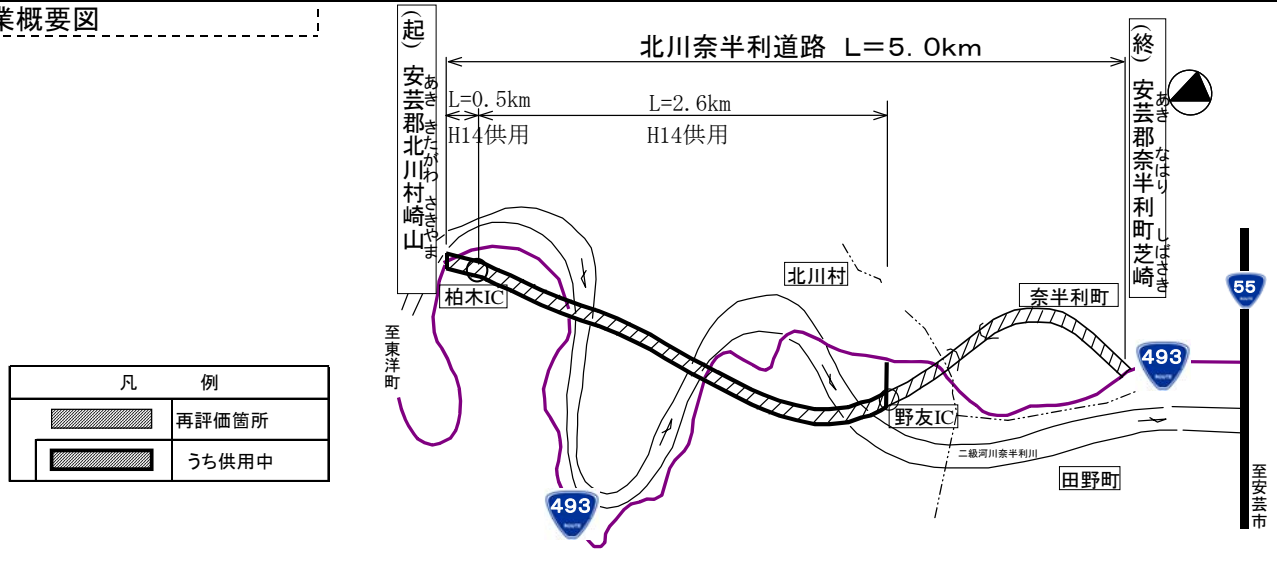
対応方針

見直し継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。